

1.3 SSH国語(国語分野)

(1) 研究開発の概要

昨年度に既に1年生普通科全員を対象に、論理的文章を読解し、要約する方法、論文の書き方について理解させるためのカリキュラムを作り上げている。今年度は、昨年度実施したSSH国語のカリキュラムを踏襲しつつ、更に成果の上がるような授業展開を工夫した。ねらいのところで挙げた相互評価を、できるだけ立場の違う人を探して相互評価を行わせたことなどがその一例である。

(2) 仮説(ねらい、目標)

ア 科学的な内容を中心とした論理的文章を読解し、要約する力を養成する。

イ 論文の書き方についての知識を習得し、自分の意見を論文にまとめる力を養成する。

ウ 他者の書いた作品を読み、相互評価することで視野を広げる。

(3) 研究の方法および内容

ア 対象生徒 1年普通科全員 323名(男子195名、女子128名)

イ 日程・内容

学期	時間	内 容
一 学 期	1	1 作文と論文の違い 2 原稿用紙の使い方 3 文章を修正する その① 新聞記事の原稿をより正確な記事に仕上げる
	2	4 文章を修正する その② 投稿欄の記事を正確な内容、理解しやすい書き方に改める
	3 4	5 問題解決型小論文を書く 「現代の日本人の食生活についてあなたが考えることを、問題を解決していく形式で600字以内で書きなさい。」
	5	相互評価・自己評価
	二 学 期	6
7 8		7 テーマ型小論文を書く 「ガンの告知について、告知のメリット、デメリットを明記してあなたの意見を800字以内で書きなさい。」
9		相互評価・自己評価
10		8 要約と文章構成の把握 その②
三 学 期	11 12	9 「原子力発電の是非について」 資料を参考にしてあなたの意見を800字以内で述べなさい。
	13	相互評価・自己評価

ウ 実施場所 各教室

(4) 検証 (結果と反省)

ア 事後アンケートの結果から

論文を書き、相互評価・自己評価をした時に実施したアンケート結果

(ア) 「現代の日本人の食生活について考えること」(抽出回答数145 無回答有)

a この授業を通して理解が深まりましたか。

①はい 84.7% ②どちらともいえない 13.9% ③いいえ 1.4%

①	②	③
---	---	---

b 読み手を納得させる作品は書けましたか。

①はい 32.2% ②どちらともいえない 48.3% ③いいえ 19.5%

①	②	③
---	---	---

(イ) 「ガンの告知について」

a この授業を通して理解が深まりましたか。

①はい 89.7% ②どちらともいえない 8.9% ③いいえ 1.4%

①	②	③
---	---	---

b 読み手を納得させる作品は書けましたか。

①はい 37.0% ②どちらともいえない 42.0% ③いいえ 21.0%

①	②	③
---	---	---

* 「原子力発電の是非について」の相互評価、自己評価アンケートは3月に実施

イ 生徒の感想から

論文を書き、相互評価・自己評価をした時に書いた感想

(ア) 「現代の日本人の食生活について考えること」

- ・一つの題材でも、様々な方向から見ることによって多様な考えが出てきた。
- ・いろいろな問題を改めて知ることができた。
- ・みんな色々な視点から書いていて読むのも楽しかった。
- ・日本の「食」に関することがとても身近に感じられた。
- ・食生活は自分と関わりの深い事柄なので、色々なことに目を向けられたと思う。もっと身近なことについても、掘り下げてみると新たな発見がありそうだと思う。
- ・日常の関連したニュース等にもしっかり目を向けていくべきだと強く感じた。
- ・読み手を納得させるのは難しいと感じた。
- ・相手に自分の意見を正確に伝えるのはとても難しいと思った。これから、そういう能力を養っていきたい。
- ・相手を納得させるにはどうすればよいか考えることができた。
- ・三段構成で書くことがよく分かった。
- ・人の作文を見て、色々と学べた。
- ・もっと回数を重ねたいです。

(イ) 「ガンの告知について」

- ・患者側だけでなく医師側のことも考えることができて、より考えを深めることができた。
- ・ガンを告知するということに対して、今まで深く考えることがなかった。今回小論文を書いてみて、患者だけでなく医者、家族の問題でもあると考えると決して簡単な問題ではないと思った。
- ・ガンの告知は難しいことだが、他の作品を読んでいるうちにどうすればいいのかを理解することができた。
- ・「インフォームド・コンセント」についての理解を深めることができた。
- ・身近に感じたことのないことだったので、イメージや気持ちが分かりにくかったが、こういうことを考えることはよいことだと思った。
- ・今回は皆が同じテーマで小論文を書いた。様々な観点から述べられた意見を読むことによって、自分の持っている意見の甘さに気づいた。
- ・同じメリットでも違う見方がされてあって、納得できる意見ばかりでした。自分では考えつかなかったことを考えたりできてよかったです。
- ・他の人のを読むのはおもしろい。
- ・納得してくれた人ともらえなかった人といたので、次はもっと説得力のある文章を書きたいと思う。
- ・ガンの告知はメリット、デメリットがあり、そのこつをうまく使うことができなかった。今回学んだことは、次の授業に生かしていきたい。
- ・小論文を書くことは難しいけど、構成などの基本が分かるようになった。
- ・前回の小論文よりも友人の評価がかなり上がっていてうれしかった。
- ・前回ののに比べてステップアップできたと思う。
- ・前回は書き出しで迷っていたが、今回はすらすら書けた。
- ・今回は読んでいてなるほどと思える文章が多かった。
- ・もっと数を重ねてやりたい。

ウ 今後の実施に向けて

- (ア) 昨年と同様に、論文の1回目（「食生活について……」）ではまだまだ文章の構成などに不備が多く説得力のある文章ではなかったが、2回目（「がんの告知……」）になるとグンと説得力が増してきた。初期のうちは回数とともに大きく文章力が伸びていくので、現代文の授業と連動させて回数を増やす試みをしてよいのではないかと思われる。
- (イ) 今年度は昨年度の反省をもとに、下書きに入る前の段階で、近くの席の人どうしで討議する時間を取った。文章に深みを与える効果があったと評価できる。
- (ウ) 昨年度同様、相互評価の形式が視野を広げる上で役に立つものだと結論を得ることができた。できるだけ考え方の立場が違う人を探して相互評価をするように指示したことも有効であった。
- (エ) 優秀な作品を一、二作品取り上げて、クラス全体で評価するという機会を設けてみるのも一つの手だと思われる。そうすることによって、生徒どうしの評価で終わらず、教員の指導、助言が入れられやすい。
- (オ) 科学的な内容の論文を書くためには、理数系の先生方の協力が不可欠である。国語科の枠を越えて、教科間の連携を図らなければならない。